

カモの性比国際調査 2年目調査報告書

—カモ類の性比と緯度経度の関係は年によって変動しているようです—

2015年1月10日～31日に実施したカモ類の性比調査では、165の個人と団体の皆さんから、国内280地点の記録を送っていただきました。調査にご協力くださった皆様、ありがとうございました。

調査地点

昨年ご報告いただいた国内の地点数は267でした。今年は、280点(図1)、ほぼ同じ地点数が全国から集まりました。調査地全体の地域的な分布も昨年とほぼ同様でしたが、今年では中部地区でやや報告数が少なく、近畿、中国地方ではやや多い報告数でした(図2)。また、種によって報告地域が昨年と異なっている場合があります。



図1. ご報告をいただいた地点(2015年)

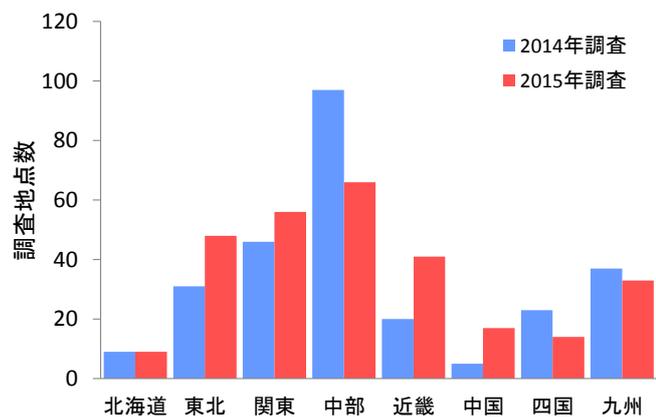


図2. 2014年と2015年の調査地の分布

(北海道(1道):北海道、東北(6県):青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県、関東(1都6県):茨城県、群馬県、栃木県、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県、中部(9県):山梨県、長野県、新潟県、福井県、富山県、石川県、静岡県、岐阜県、愛知県、近畿(2府4県):三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、中国(5県):鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、四国(4県):香川県、愛媛県、徳島県、高知県、九州(8県):福岡県、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、大分県、熊本県、沖縄県)

調査方法

2014年の調査で報告が寄せられた種のうち、以下の10種を対象としました。50羽もしくは30羽以上の群れを対象に雌雄を数えていただき、その結果をご報告いただきました。ただし、調査地のカモの数が多き場合は、全数ではなく一部をサンプル調査している場合もあります。

50羽以上(8種):オカヨシガモ・オシドリ・オナガガモ・キンクロハジロ・コガモ・ヒドリガモ・ホシハジロ・マガモ

30羽以上(2種):ハシビロガモ・ヨシガモ

幼鳥の第一回冬羽から成鳥羽への換羽が遅い種(潜水ガモ類の一部やアイサ類)では、調査時点で換羽して

いない幼鳥とメスを合わせた数がメスとして記録されており、そのような種ではオスの数が過小評価されている可能性があります。

結果と今後の方針

調査対象とした10種のそれぞれについて、昨年と同様にオスの割合と、緯度、経度、そして雌雄の合計個体数との関係を分析しました。

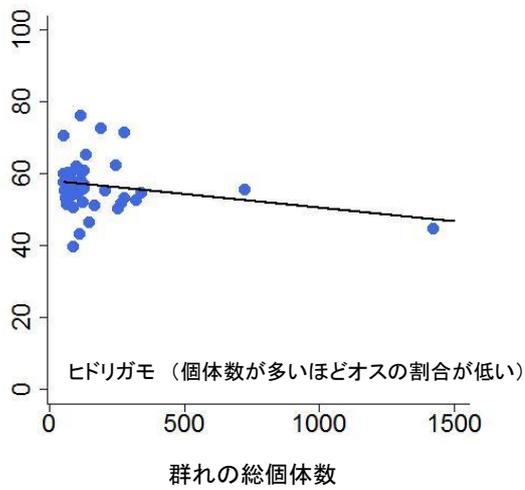
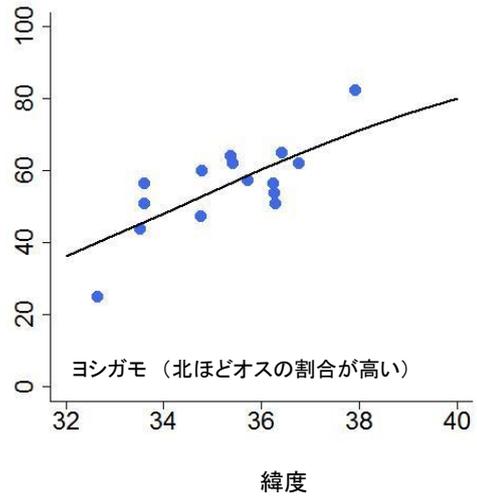
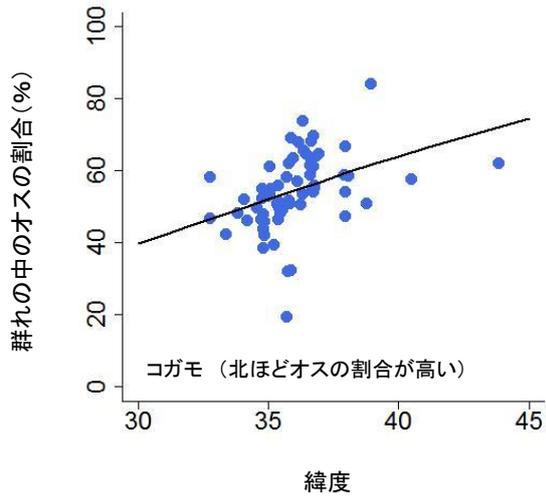
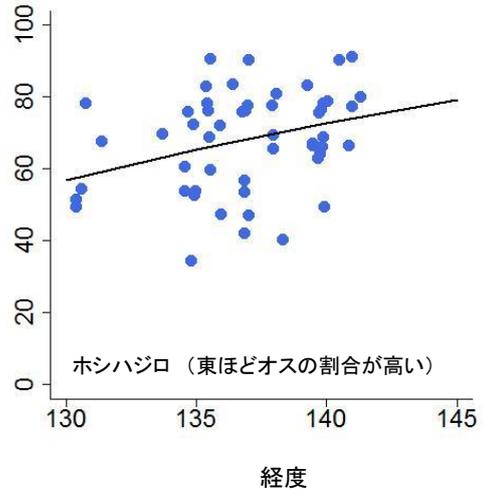
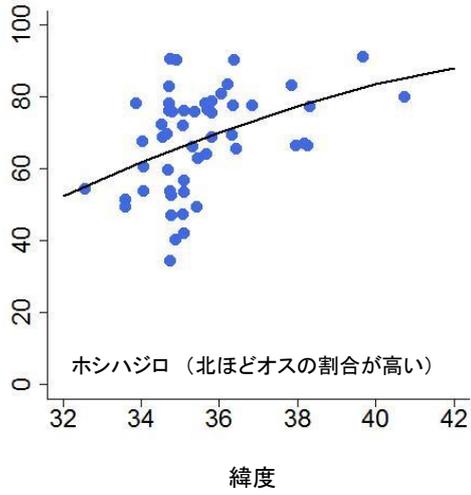
ホシハジロでは昨年と同じ傾向が得られました。緯度から見ると北に行くほど群れの中のオスの割合が高くなる傾向が、経度から見ると東に行くほど群れの中のオスの割合が高くなる傾向がみられました。コガモでは、2015年の調査では経度との関連ははっきりしませんでした。緯度との関連は2014年と同様にみられ、北に行くほどオスの割合が高くなる傾向が得られました。緯度、経度および個体数のいずれも、群れの中のオスの割合と関連がみられなかったという点では、オカヨシガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモの4種も2014年と同様の結果といえます。その一方で、オシドリやマガモでは、2014年には緯度や経度との関連が見られたのですが、2015年にはその関連ははっきりしませんでした。ヨシガモやヒドリガモでは、オスの割合に関連する要因が昨年とは違っていました。

2年間の調査から、ホシハジロとコガモの性比は緯度あるいは経度と関連があるといえそうです。また、いくつかの種は緯度や経度以外のことがオスの割合に関連していそうだとすることがみえてきました。そこで、まずは環境によって性比が異なるか、同じ調査地でも性比は年により変動するのか、など、より詳細な分析を行っていきたいと思います。性比に影響する要因の解明は一筋縄ではいかないようですが、彼らの秘密にもっと近づくために、2016年の1月も調査を行いたいと思います！ぜひご協力お願いいたします！！

表 カモ類の国内の雌雄比の傾向。赤字は昨年と同様の結果を示した種。

傾向	2014年	2015年
北の地域へいくほどオスの割合が高くなる	コガモ、ホシハジロ、ヒドリガモ、マガモ	コガモ、ホシハジロ、ヨシガモ
東の地域へいくほどオスの割合が高くなる	コガモ、ホシハジロ	ホシハジロ
西の地域にいくほどオスの割合が高くなる	オシドリ、ヨシガモ	
南の地域に行くほどオスの割合が高くなる	オシドリ	
総個体数が多いほどオスの割合が高くなる	マガモ、ヨシガモ	
総個体数が多いほどオスの割合が低くなる		ヒドリガモ
傾向が見られない	オカヨシガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモ	オカヨシガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、オシドリ、マガモ

性比に地域的な傾向の見られたカモ類



調査にご協力いただいた皆さん(敬称略)

青野悟	箴部達也	下土居知子
青山夕貴子	小田谷嘉弥	白井康博
秋山幸也	越智葵	白石健一
飛鳥和弘	葛西義夫	杉浦嘉雄
阿部誠一	笠原里恵	鈴木康
新井清雄	風間美穂	鈴木遼太郎
安藤ひろみ	柏木敦士	関憲二
伊賀文計	加藤ななえ	高橋邦年
池野進	神谷要	高橋輝男
石田スーザン	河辺典子	高橋伸夫
石田俊二	菊地弘保	高橋雅雄
石戸谷芳子	菊池康樹	竹下栄
一戸リツ	北川捷康	竹田 憲正
伊藤道子	木下文生	竹浪 了
今西貞夫	熊谷高博	田米希久代
岩本 孝	組頭五十夫	田澤一郎
岩本昌憲	呉地正行	田沢 馨
植田睦之	神山和夫	田中葉子
植田潤	越川重治	谷岡仁
上田平安	小西 敢	谷口高司
植竹孝	小堀英憲	谷本洋子
内田光俊	小室智幸	手井修三
鵜野レイナ	古山敏明	帝京科学大学野生研
馬田勝義	小山信行	てがたん(我孫子市鳥の博物館の自
梅村昭雄	古山蓮弥	然観察会)
梅村幸稔	斉藤信	土井寛大
大崎 敏広	齋藤敏郎	東條秀徳
太田峰夫	堺勝重	土岐修平
大出水幹男	佐久間淑章	米倉静
大西順子	佐々木和治	富永誠
大野美枝子	佐藤重穂	長嶋宏之
大橋正明	佐藤松範	長瀬瑞穂
岡村和子	四宮孝章	中村 聡
岡本浩	芝田喜亮	夏川遼生
小川加代	嶋田哲郎	鳴海真澄
奥野俊博	清水敏弘	西村眞一

野澤徹也
荻原千恵美
橋本清澄
濱田哲暁
原 星一
原田量介
日比野政彦
平泉秀樹
平田和彦
平山恵子
福岡賢造
福島英樹
藤井幹
藤田君雄
藤波不二雄
二河 正
古井繁孝
堀田昌伸
本田敏夫
本多里奈
本間隆平
松岡和彦
松田久司
松原一男
松丸一郎
三上修
三上かつら
水村はるか
三橋立
箕輪義隆
三間久豊
村田幹夫
村濱史郎
望月通人
森久繁
守屋年史
矢嶋興一
安井啓子

安岡久志
安田耕治
柳川美保子
築川堅治
柳町邦光
山口めぐみ
山崎法子
山崎充茂
山田勝巳
山根靖正
山本芳夫
横田敬幸
吉中康展
吉邨隆資
四ッ家孝司
脇坂英弥
和田太一
渡辺仁
渡辺宏之
渡辺義昭

ご協力ありがとうございました。